

昭和18年2月1日（月）

朝降雪。一寸許り街路掃除取止め。今日、切手類請求一千二百円。貯金切手50枚着。晴天、日向は暖かし。葉書一万請求。小母車をミワさんに挽いて来て貰ふ。電報書類入れ籠、1, 52にて求め来る。切手準備多数なるも、請求は大木一名12円、而して窓口90円。昨今火災頻出。特に火の用心に付き、隣組より注意あり。焼失中、羅漢寺類焼の災に遇ふ。一つ松火災も、ボヤの程度を超え損害数十万円に及ぶとあり。日中は常務に追われて、報告物に手を附けること能わず。為替岩尾さん午後6時を過ぐ。過剰20円を生じ、遂に臨時受け計理す。頃日ミワさん夜も、8時9時頃より教会かかり行かる。

昭和18年2月2日（火）

朝、道路中央部一様に濡れて居る。掃除両側だけ。其の余剰時を事務室の掃除に費やす。朝森久より印紙5銭千三百枚請求に依り、残なくなり急に請求準備。10円5円等不足分、合計二百円請求す。請取りはミワさんに行つて貰ふ。朝餅少々焼き黄粉にて頂く。坊や過食せしか、稍下痢の程度なり。一日より牛乳は一本に改む。業者より増加は認められぬと宣言されしも、二三日前の分まで剩り居る状態とて一本とせしなり。朝切手代支払いに、中津局に駈付けたる頃より降雨、次第に本格的となる。一日の請求に計算上2円過剰支払いたるに対し、西田氏に注意したるも返事なし。夕方、竹折主事より何か修養方面に対する書籍の借覧を求めらる。水野南北の本、外一冊貸して遣る。10時より11時までの間に、寝ることにしあり。夕食味飯。

昭和18年2月3日（水）

夜来降雨、歇まず。表の掃除を見合わす。朝湯、火鉢の空気出入り口を塞閉し置きたる為、消えた様になり居る。坊や小用に午前3時起こせしに大便す。序でに排気口を明けたるに、火力漸く復活す。乃ち更に釜に水を入れてかけ置く。此日降雨続き夕方歇む。坊や下痢。夕方軟便程度となる。粥を遣る。朝、昨夕食の残りを蒸し直して頂く。夜も同様とて副食物不要。豆腐の吸い物も手を付けざりし。切手請求多く、2銭不足を来たす。午後警察特高巡查部長、関某氏臨局。最初貯金の模様を尋ねたるが、問題の核心は別にあり。貢の一件なり。而して恰も友人関係でもある如く訊ぬ。併し何も内容は知らぬものの如し。余も別に語らへざりし。但し貢の潔白にして正直方面を讃え、警視庁にて先年杉田氏に語りせしことを話す。馬鹿正直などと片付くべきものに非ざるを強調す。一時間弱にして同氏皈り、夕食を摂る。何やら付き纏う貢の身辺に付き、快適を覚えざりし。貢氏写真焼増し何枚か持来られ、母堂も単独にて撮られしものか。

昭和18年2月4日（木）

夜来降雨ありしか街路泥濘、掃除中止。切手類請求にミワさん行かる。西田さんに交渉して過剰金2円貰ひ来らる。黙して居れば呉れぬ気配を認めたりと。請取りの為には余行く。葉書四千ありし。明5日防空訓練ありて、警察部長の臨視ある筈。其の序幕として此日下稽古。ミワさん午後1時より出勤一時間強。其の間坊や克く眠る。佐世保、中尾宗一氏妻女よりの通知によれば、去る30日貢に面会に行かれ、酒一本、肴色々調理持参。道子見えざりしとあり。此の手紙を道子にやって貰ふ。31日に出発せ

しものと認めらるる旨。駅荷物託送に、兵隊さんが二人、駅員と打合せ居れる状況を目撃して判断するとあり。坊や九時頃まで一時間余負はれて睡り、下に休ませる際、覚めて眠らず。10時を過ぐ。

昭和18年2月5日（金）

晴れ。森久より印紙10円3枚、5円20枚、其の他百五六拾円の請求あり。10円は準備払い底、5円も残僅少となる。税務署へ報告物を済まし、過払事故の処理を了す。朝うどん残頂く。坊や朝早く起き、ミワさん負ふて7時頃再び睡る。下に炬燵に眠らす。9時近くまで起きず。座敷掃除の要あり起こす。ミワさんの拭き掃除大いに進捗す。道子、貢氏より同時に手紙来る。3日には出発したるらし。此日旧元日。戦地に餅の小包多数引受けあり。ミワさんより貢へ発送の手紙届きしや、心配して居らる。

昭和18年2月6日（土）

朝飯中途にして事務室に立つ。影浦より印紙百円5枚請求あり。序でに不足分10円5円等、為替百五十円請求す。払込みにミワさん、領収にも。保険は立寄り用弁しておるうちに交付を受け、十一時半頃飯らる。豊浦より電話あり、局に来て待つ。午後6時頃、遮閉幕持来り、主人公に次いで妻君来らる。70円と云ふ。余は50円を見込み居りたる。ミワさんは20円と仮定したる。何れも其の懸隔の甚だしきに一驚せしも、時局柄なるべしと諦むる外なし。

昭和18年2月7日（日）

昨夕より降雨。朝曇り。道路中央部は潤湿、両端は風の

為乾き居れり掃除す。朝、餅焼きして沢山頂く。朝食後事務室掃除す。ミワさん外出。此の間に小野氏来訪、之を局事務室に案内。少時咄す間にミワさん販着。茶を出し火を継ぎ足す。同氏の長男は自動車工業所に居り応召、家内と子供は東京に残り居るも、八割の給料補給ありと。三男は行橋の鉄道に居りしも、大刀洗飛行隊に昨年より入隊。而して長男は牡丹江、純一氏はビルマに、三男は今大刀洗にあり。家郷は老夫婦のみと云ふ。田は5反余畝を作るに不適と云はる。餅二重約3升あるべし。新年に搗きしものか、相当堅くなり居る。森田さんよりもかき餅、粉餅21ヶを頂く。小野氏には煎り子一円を土産に贈呈。昨年も同様と認めたり。此日風強く陽射さず。夜臨時常会、7時より9時半頃まで。坊や余、子守りす。此の日、為替改正法規研究会、中津局に於いて挙行。前田員出席す。昼食斡旋出来ず、各自弁当持参のことになり居れり。澄子より母堂へ足袋カバー、其の他ミワさんへも送付越せり。9時過ぎより、ズボンの綻（ほころ）びを修繕す。常会より販らるるを俟って、坊やを任せて初む。11時に至る。不完全の俣中止す。

昭和18年2月8日（月）

曇り。朝、向いの肉屋で珍しく物置場を掃除し居る。其の儘任せて掃除を続けたるも、夜来多少降雨あり街路湿润、早く切上ぐ。防火水桶に水を満す。切手請求にミワさん。「感謝の生活」本を竹折氏に貸す関係上、進んで行かる。資金請求を兼ね受取りには余行く。ミワさん坊を負ふて隣組もん平連に交わり、練習に参加。但し何れも仕事はせぬらし。各班とも練習に熱意を示す。午後より二時間出勤。隣の物置は一班の事務所となる。朝、餅

を五六ヶ頂く。黄粉沢山あり。夜の燈火管制には黒幕に依り遮蔽され、先ず以て無難に過ぐ。8時空襲解除。坊や裏の方消灯の為、事務室に来たり。ストーブの灰を掻き廻し、ばら撒く。臈（やが）て余の側に来たり木灰を金庫に叩き付け、屑を四方に散らす。乱暴驚きに堪えたり。此日風強く寒し。陽一向に射さず。切手類の売捌所よりの請求、二百円を超す。頃日残数のみ毎朝ミワさん当たる。

昭和18年2月9日（火）

夜降雨。道路幾分悪し。隣室事務所跡、テーブル椅子等は取去りしも、消火道具類は立掛けられたる儘にて、掃除もせられあらず。余掃除す。此日曇天寒し。朝10時出勤の筈なりし伊勢氏不来。電報は総て遅延一時間に及ぶ。全体10時より森田氏服務番なりしを、妹アキさん国民学校父兄会。森田氏3時過ぎまで勤務し不能。正午より父兄会に臨む。伊勢氏11時出局。別に断り云ふでもなし。公務員としての態度に非ず。朝雑炊、夕食粉餅を入れたる飯を頂く。朝、坊や負ふて座敷掃除す。

昭和18年2月10日（水）

午前3時頃より降雨。道路掃除せず。切手類の請求す。母堂、遮蔽用黒幕を収むる袋を調製下さる。雨、黎明と共に歇む。時々陽射しありしも、10時頃よりは全く曇り。切手代払込みはミワさん、領収は余行く。葉書六千あり。朝餅を五六ヶ頂く。ミワさん遠慮して余に多くを薦めらる。

昭和18年2月11日（木）

紀元節建国祭。朝の間曇り、後次第に快晴。朝雑煮食

べ過ぎたる嫌いあり。街路掃除し、馬糞に似た色の手套（しゅとう）が片々つつ馬糞の側に落ちてあり。子供連れと見え、小なる方は子供の分なり。拾っても困り、落とし主は一層困り居ることなるべし。母堂もミワさんに連れられ教会行き。午後4時過ぎ飯られ、夕食後湯に行かる。林の爺さん、事務室の卓子一度修繕分、再度壊れたるを7時頃修復し下さる。ミワさん買物の序でに横田氏方に立寄られ、勝恵ちゃんの大人びたるに驚かる。お父さんの名前は「仙一」と答え、お歳は「三つ」と答ふ。坊やは、前田さん森田さん等全部の人々の名を意識するらし。其れ位で、喋舌ることは一向出来ぬ点は、大分勝恵ちゃんに劣る。今日下駄を穿かせて連れて行かれたるに、往くときは一直線に、復路は一軒毎に立寄り、或いは反対方面に赴き、当惑されたる如し。福島さんから菓子を頂きたる由。

昭和18年2月12日（金）

曇り勝ち。伊勢さん8時に来る。森田さん8時より同じく出勤。伊勢さん何れにか行き、10時に帰局。先日伊勢さん一時間遅刻に対し、出勤簿に表示したる措置を皮肉り、再び遅刻を放言す。爰に於いて余、伊勢さんを前に立たせ、其の不誠意を詰問し辞表の提出を求む。少時して泣きて弁解す。余不応、二階に上がり居る。ミワさんに協調の労を採らしめ、森田さんに断り方を余になさしむ。乃ち責任を負ふて今後の指導に当たらしむ。伊勢氏を座敷に請じ懇諭す。斯くて陳謝改悛を見届け、サービスを継続せしむ。多忙の窓口は時に森田さん不在勝ちの為、ミワさん手伝ふ。余の仕事も一律遅延。森田氏も6時近くまで計算に費やしたり。夕食餅焼き10ヶ余り頂く。朝の模

様では腹加減を案じたるが、垂れる吐瀉する二手段にて、胃腸の機能恢復せしか。順調に推移するを得たり。

昭和18年2月13日（土）

晴れ。伊勢氏の態度一変、しおらしくなる。逓信局出張員、今津局長後任問題にて立寄り、和男氏を自分の乗る下り列車に今津にて同車を求め、電話通達方を余に委託す。時間の都合にて今津に立寄ること不能の為、汽車中にて談合せし意向らし。今津に電話したるに、午餐に飯宅し居ると云ふ。召喚電話にかかり貫ふ。夜森田玉五郎氏、坊ちゃん連れて見ゆ。秋子さん高女入学問題らし。七時頃事務室に挨拶に来らる。昨日より風寒し。坊や咳す、風邪気味。ミワさん同断。坊やを負ふて中津局に行かれ、明日の研究問題に付き保険に質ねに行かる。時に資金が急に必要に迫られ、夫れを持販らるるを待ち能わざる為、岩尾さん自転車で受取に行くこととなり、中津局に居るミワさんに電話したると。坊や重くして負い切れぬから、小母車持来たれとあり。岩尾さん、乃ち自転車の代わりに小母車を押して中津局行き、資金を受取り販らる。坊や急に重くなったわけではなく、風邪の為身体異状ありしものと被認（みとめらる）。

昭和18年2月14日（日）

晴れ後曇り。午前10時より、梅の井別館にて研究会開催。逓信局より提出の問題を研究答申すること。ミワさん及び伊勢さん出席。市内より栄町、一つ松より各一名出席。女子計九名の出席ありと。余坊やを負ふて街路及び屋内を掃除し、朝食後再び負ふて守りす。10時頃睡入る。下に降ろし炬燵に寝かす。事務室掃除す。正午頃坊や起く。

此の朝餅焼き、夕食も朝の残りを独占。次いで巖の家に、故愛子の一周忌の供養として、供物一円四五十銭分、丸房露蜜柑等持参す。之より先、坊や起きて看守の為、食堂にてズボンの綻びを修理する際、巖来たり。愈々転宅を要することとなり市内を物色したるも、適當の家なく、不得已、宮永の某に事情を訴え善処を乞いたるに、三百坪を二千三百円にて売却の意見あり。小屋を加え二千五百円を投げ一応住居に適する様、先方に任せ、契約せりと云ふ為知を齎（もたら）して来宅。余、賛意を表し置けり。余、故愛子の霊に詣でたるに、団子菓子等供物あり。一時間話して販る。小餅少しに、馬鈴薯少し許り呉る。研究会出席員は2時頃販り、女子は一緒に映画を觀に行きたる由。ミワさんのみ販宅さる。如水より田畑さん来会の由。同氏の夫は除隊となり帰還し、目下小倉工廠へ通勤の趣、話さる。同女の妹も、一緒に如水局に勤務し居ると云ふ。

昭和18年2月15日（月）

此の朝、巖より貰いたる小餅九の内、粉餅数ヶあり。之を焼きて頂く。他に粥飯あり。母堂、胡麻味噌造り下さる。胡麻は曩に金光に参詣の際、求め来られたるもの。之を粥に入れて頂くに美味なり。巖、余が中津局に切手資金納付の為、出発不在中、朝吹氏と来たり。一千円を即時払いすると云ふ。豊後町にて預入したるものを、資金とりに行く人が居らぬ故との理由にて、当局に来たりしも、本局にて取るよう慫慂し問合せたるに、それは不可と断られ、矢張り豊後町より受取るよう懇示せり。然るに5時頃相手は違約し、問題は再出発となりたる由を伝ふ。どうも話が余り良き過ぎたりと思われたればなり。此の節は

金より物と云はれて居るに、金に窮したるに非ずして、廉く手放すと云うことは常識にて思考されず。そうなるのが当然かも知れぬと思ひぬ。曇り、風強く寒し。森田さん8時の上り列車、飯塚に飯らる。ミワさん丸房露十一ヶ、土産に贈らる。玉五郎氏よりは鶏卵2ヶ頂きし謝礼なり。

昭和18年2月16日（火）

快晴、霜白し。日中は日向は暖かなり。道（さすが）に春らしくなる。澄子より手紙。久子、武藤に加勢に行き居る。妙子黄疸を患ふと。淳の子守りに悲鳴を挙ぐ。玄米飯を食べ居る如し。うどん及びメリケン粉、砂糖を要求し来る。道子職に着きたいと云ふ。坂本先生や山本先生の名あり。先者は西之氏、後者は女専の先生と覚ゆ。今日印紙請求及び請取り、資金請求と三度中津局行き。坊やを抱き陽向に出て守りす。ミワさん仕事を終えて外出に坊を連れらる。ミワさん坊やと共に咳甚だし。此日より牛乳配達に量り売り主義を採用、容器提供せしめつつあり。瓶の補充つかぬらし。一面、配達人は量り剰りの余沢を享有するの利あると観たり。夜、林檎求め来らる。一ヶ拾銭余に当たる。特別に配給を受けたるらし。一ヶ頂く。

昭和18年2月17日（水）

午前中晴れ、午後より曇り。室内は寒きも戸外は暖かし。坊やミワさん連れ出し、中津局へも印紙を請取りに行かる。途中道草とり当惑さる。水甕二斗入り、5, 07にて求めらる。桶は鼠害を受け米を喰い荒らされ、鼠糞胡麻の如し。早速甕に移し、蓋を硝子板にす。昨夜は座敷の床の間を囓り、餅箱に入れある餅を狙ふものの如し。餅箱を別の位置に移したるに、囓り方は停みたり。但し餅

一ヶは何れより侵入せしか、押入の隅に転がりあり。夕食の際、坊やに鶏卵生のまま与ふ。牛乳配達なき為、卵にて代用したるもの。奇麗に食べたり。朝雑煮。

昭和18年2月18日（木）

夜来降雨。朝に持越して歇まず。街路掃除中止。切手残葉書100不足。これは昨夜無記録の儘、支出の結果と判明。高羽富次送金参拾円、1, 15。笈川振出小為替受取り礼状、発送置きたり。朝粥頂く。坊や昨夜11時頃まで眠らず。今朝早く眼覚む。余、負ふて掃除す。朝食時再び眠り、無事飯を済まし得たり。昨夜甕に米を移したる為、暫く跳梁を途絶えたる。二階へ鼠族食物に窮し分散、再び二階を荒らすと森田氏謂はる。ミワさん坊や共に風邪、咳多く入浴せざる数日。此日より咳出でず、鼻水は出方変わらず。夜、林檎すりてやる。炬燵火を入れ過ぎたるか頗る熱し、焦げ臭し。乃ち11時頃起きて、幾分火を取出したり。

昭和18年2月19日（金）

朝街路泥濘、掃除見合わす。10時頃巖来たり。福地先生の御世話に依る下郷の人、草野八重子28が承諾の手紙を持来して、俺の意見を叩く。福地先生の人格を尊重して同意したるも、一応人物を見る必要ありと答ふ。此日遂に晴れず。曇りの儘、推移す。余、資金二千円請求に12時近く出掛く。坊や其の後でミワさんと出掛く。日の出町の方は道路悪く靴を汚したる由。為替、岩尾さん10円欠損。夜に至り、森田さんの小父さん訪ねて来らる。戸次町にて教員して居らるる由。青少年団の大会に出場の趣なり。夕食味飯。17日売出しの牛肉を、同日求め置か

れ飯にも入れらる。朝は粥。電球昨夜求め、マツダを使用することとなる。従来ナショナル、兎角切れ足早き懸念ありし45。

昭和18年2月20日（土）

曇り、街路掃除す。朝、岩尾氏に欠損金半額遣る。炭団（たどん）20ヶ求めて来らる。先日豆炭求めしに、燃え切らぬ儘消え、甚だ不経済なりしが、木炭を圓（まる）めたものは一旦燃えれば消火することなし。処が注文多く、乾燥に一ヶ月を要するに、買い手は濡れた儘買っていく始末に、こちらも生のまま購入の余儀なきに至れり。柴町局長見え、20分程話して去らる。駅より荷物が届き、其の荷物を受取りに見えられたるなり。夜、蜜柑林檎頂く。坊や靴を穿かせてミワさん外出。例に依り、途草とって閉口されたる由。澄子宛て葉書書きし。巖来たり。福地先生に報告要旨を聞く。森田さんの小父さん、10時過ぎ飯らる。森田さん坊を連れ駅まで見送らる。

昭和18年2月21日（日）

午前中曇り。次第に雲消え快晴となる。午前7時、神様掃除さる。朝餅焼き雑煮。午後理髪35。10分間にて飯る。午後、森田玉五郎氏見えらる。昨森田さんよりの電報意味不明の為、此日福岡に青年団を率いて出張の予定を、こちらに来られし由。午後2時過ぎ、母堂と一緒に神詣で。余3時より福地氏を訪ふ。行橋の教会に午前中出張。午後2時5分の汽車にて飯らるる由。今朝巖、福地氏への土産物お茶を持参。其の土産物を持ちて訪ねたるなり。先生不飯、奥さんと少時話すうち先生飯らる。改めて厚く幹旋の禮を述ぶ。30分計りにして飯宅。此の

間森田さんに留守を頼む。余販り着物を藏へ、少時してミワさん販らる。坊は靴を穿きて徒歩、販りは負はれて居る。夕食6時近し。玉五郎氏販らる。恰度飯の中途に挨拶に来らる。福地氏の意向は、今日手紙を先方にやり、木曜日に余と巖とを連れて寄寓の家（姉の縁付き先にて、空扶斯に雇ひ静療、目下全快す）を訪ねる手筈にて、先方の実家より父兄の来着を期し、相当余裕を見積もり、五日間を指定したるらし。夜、餅の残りを喰ふ。

昭和18年2月22日（月）

昨夜頂ける餅はどろどろとなり、二椀半を重ぬ。これは嚙まず吞込むので、結局は堅い方より消化悪し。其の為か胃に停滞あり。今朝嘔吐あり、残滓物吐瀉す。昨日、寝巻ミワさん洗濯し下さる。物干し場、陽蔭にて全く乾かず。時計時報のゼンマイ切断す。寝巻は炬燵に入れて間に合ふように乾かす。裾の方は乾かぬまま着用す。朝、巖来たり。25日8時先方へ行くと云ふ。メリケン粉に野菜を入れてパンを作る方法を会得したるらし。食物のない折柄、思い付きと認めらる。風強く晴れ。

昭和18年2月23日（火）

此日も風強く、陽向の風を受けぬ部面は暖かなり。朝、坊やウンコを床の中でやる。余、街路掃除中の出来事なり。坊やは湯にて洗って下さる。敷布団や寝巻汚し、悉く母堂の手を患わす。そのため余の仕事の方が何日より進捗す。切手類の請求せず。法規の訂正をなす。前日東京敏子さん送りの海苔、坊やの玩具、飛行機と犬は何れも車が離脱しありしが、今日は叩き付けて破壊したり。昨湯に行き林檎をやりしも、今日は菓子と振替ふ。

昼寝は余、衝に当たり、夜はミワさんでなければ収まらぬらし。今日も負はれて睡る。其の儘9時近くねかす。

昭和18年2月24日（水）

晴れ、風猶強し。昨、風激しき為、火の用心に付き隣保班より注意あり。戦時手当着、分配す。ミワさん坊を抱きて午寝せしむ。従来下に寝かして常に失敗を重ねたるもの。餡入り団子1ヶ5銭にて1円分求め、堅麴も2袋求め来らる。麴は砂糖なしとて一向お旨しからず。坊やは吐出して食わず。坊の喜ぶ菓子は餡入り饅頭のみ。此日前田さん5円欠損。巖、乗車券下郷まで往復1、70、二枚余に渡し、午後自製の麴持参す。余に薦むるも1ヶも食わず。勝手に持行かしむ。但し夕食時2ヶ頂く。余り膨らまず野菜類を油にていたためたる由なるも、福岡の方がお旨しく思ひぬ。例の団子も2つ程頂く。朝掃除の際、小雪散らつく。晴れたり曇ったり。

昭和18年2月25日（木）

3時起床。街路掃除を了し、既に朝餉の準備成れりとの報あり。乃ち8時前に御飯頂く余裕あり。髭剃りす。巖来たる。パン自製の持参。福地先生切符求め居らる。仍って引換えを乞ふ。10銭手数料かかる。無帽マントなしにて先生より驚かる。帽子もマントもこちらに持来し居らず。其の為に着ぬのか、有っても着ぬのか、解釈の如何によりて一向感心の出来ぬこともあり得る。発車時乗組員多数、余等立って居る。二三駅を過ぎ、座席次第に空く。巖新聞持来、途中読む。一時間余を費やし下郷着。駅前を左折、更に半丁にして左折。峡谷を上がり30分にして達す。山と山と次第に逼（せま）り、其の間に山国支

流を擁し田圃拓く。木炭の産出に富む。11時近く達す。先方より長男来たり。当家の姉夫婦及び本人と都合四名。先方の要求は、安心の出来る方法を講じて呉れと云ふ。大体諒承し、福地先生の祈りの言葉あり。2時20分出発。同50分駅着。3時15分発、4時10分頃着。うどん造りて待居らる。巖にも饗応す。10時まで仕事す。坊や余の販る少し前に昼寝より覚む。9時頃まで睡らず。

昭和18年2月26日（金）

朝寒し。坊や9時近くまで睡て居る。余等朝食を済まして坊を起こす。昼寝は3時近くよりす。切手類在庫不足、漸く目立つ。今日必要度の強きもの百円請求す。17銭切手新調のもの到来を報ず。来月に廻す。売捌所よりも請求少なし。窓口売りの方が90円を超ゆるも、月末らしき現象と認む。新塗??糸魚川に居る川口簾喜知氏、2月8日逝去の由。飯塚に通知あり。息一夫、辰雄連名。

昭和18年2月27日（土）

昨、前田氏扱い20円欠損。例に依り今日半額弁償す。今津局長逝去。明日、午後4時より告別式ありと云ふ。切手類は印紙388，63に対し286，41に不過。準備少なく、一日の充実時までの売捌所よりの請求、懸念さる。

昭和18年2月28日（日）

晴れ。巖、余が福岡行き小包梱包中、来局。千円妻名義の預金通帳作成するも、引出しに対する条件を一札にして持来る。余、之を不可とし、福地先生に相談せよと注意す。福岡への小包は人参一本5銭の十本、牛肉百匁、菓子、堅麺麴等普通小包30。中津局に持行かれ一時の

便に結束。豊後町局長と打合せたるに、午後2時41分発車にて出発すと云ふ。余も同行を約したるに、該当の発車なしと云ふ。切手丈け、先に求めにミワさん行かる。鶴居局長も一時のにて出発とあり。急に余も間に合うならと思ひ、僅かに十分を剩すに不過も、仕度して至れば猶余裕あり。遺骸の安置しある部屋に通ひ、令息及び母堂に面会、見舞いを供ふ。柿坂、鶴居、余は、別に控え所たるお寺に時の移るを待つ。3時40分の汽車にて、守江局長見ゆ。4時10分頃、霊柩裏の海岸松原に設けある祭壇に向かつて、左側は親戚血縁者、右側は一般参列者、正面真宗の老司会僧と伴僧と二人切り。先ず読経五分間、次いで局長会長の弔辞、部会長、町長、学校長、其の他にて三四分間位にて済む。斯くて焼香に移り、終了せしは5時なりし。駅に着し際は、猶上り列車まで一時間あり。会長、鶴居長等、間もなく到着。下りは21分発にて守江長を見送り、余等上り組は6時16分まで、火の気なき待合室にて、柿坂鶴居其の他の局長連と待つ。天候は3時頃は晴れ模様なりしも、次第に曇り。稍冷気を覚ゆ。夏服しか準備なかりし為、幾分寒し。賑れば日暮る。夕食を済まさず待ち居らる。坊や負われて三時間眠り、其の間報告物を済まさんと。坊やの長時間睡って呉れたるに対し礼讃。栄町長病氣。